

# 山行報告書

報告書作成

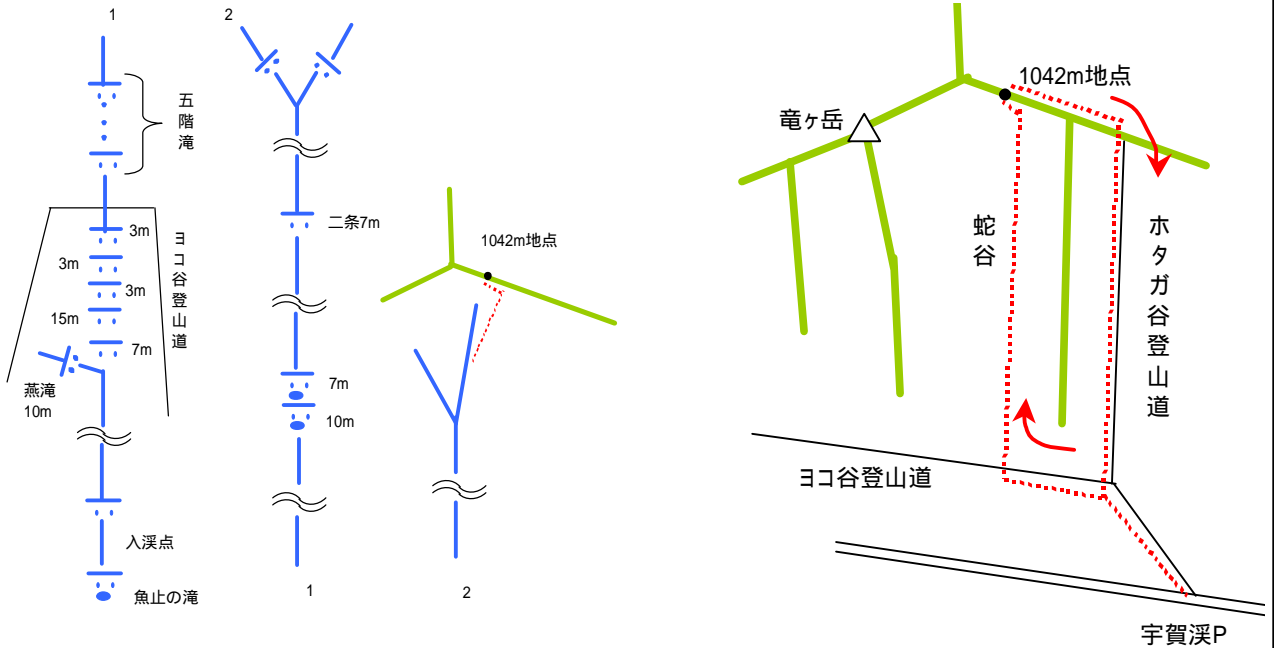
2006年8月30日

山名 [山域]	竜ヶ岳 [鈴鹿]	目的と方法	沢登り
登山期間	8月27日(日) 曇	山行形態	日帰り
参加人数	7名		

## 行動記録

市民センター P(410)==豊田東IC(415)==四日市東IC(450)==宇賀溪P(525,600)--ホタガ谷分岐(625)  
 --魚止め滝上部(635,650)--ヨコ谷登山道(815)--7m二条滝(1210,1245)--源頭部(1500,1505)  
 --1042m地点(1530,1550)--ホタガ谷分岐(1725,1735)--宇賀溪P(1800)==永楽の湯(1840,2000)  
 ==桑名東IC(2015)==豊田東IC(2100)==市民センター P(2105)

## 概念図



## 日誌

岡崎山岳会に入ってから2回目の沢登りは竜ヶ岳に詰め上がる蛇谷という沢を満喫した。  
 ある本によれば、昔、大蛇が棲んでいて、ある時、村の若者が大木を投げ入れたら大蛇は竜になって  
 天に昇ったという言い伝えがあるらしい。  
 由来の方はこの辺でとどめとして、最近の遡行記録を覗いてみると、かなり蛭が多いらしい。  
 果たして、今回の結果はいかに……………。  
 ヨコ谷コースを歩き、十分準備運動となったところ、魚止めの滝を巻いたあたりから沢に下りる道があり、  
 そこでハーネス類を装着し、入渓点とする。  
 前回の比良の沢とはまた溪相が異なっており、廊下状の小滝が多い。  
 しばらく進むと、左に燕滝を分け、いよいよ蛇谷の出会いである。  
 7mの滝は右側から登り、すぐに15mの滝に遭遇する。ここは左側を巻き、ザイルを出す。  
 長尾滝へ行く登山道を越すと五階滝とあったが、どれが5個なのかよくわからない。  
 しばらく進むと、Rさんの足に蛭を発見。でこピンですっ飛ばす。ここからは蛭を十分にチェックする。  
 今回の沢は次の10m、7mの滝が核心部であったと思う。両方とも左側からザイルを使用。  
 K師匠にザイルワークを丁寧に教えてもらう。  
 この間に、神戸の4人パーティと、京都の2人パーティに先に行ってもらおう。  
 2条7mの滝を越えたところで、昼食とする。ここで蛭をチェックするがセーフ。  
 Yさんの持ってきたタッパいっぱいのプチトマトと巨峰がなんとおいしいことが……………。  
 この後も快適な滝をいくつも直登しながら、源流に近づく。ここは源流部分でも水が流れており、比較的  
 ならかな山容であった。最後の詰めは谷筋ではなく、右の稜線を笹こぎすると、1042m地点に出た。  
 ここで蛭チェックをすると、実に4人の犠牲者が……………。時間もかなり押していたので、竜ヶ岳はやめ、  
 ホタガ谷を下る。下りには少々きついけど、何とか無事に駐車場へ着くと、Sさんはなんと手のひらが蛭のえじきに！  
 極めつけは帰りの車中から偶然にも桑名の花火を堪能し、余韻も冷めぬそのとき、「ティッシュ、ティッシュ！」と絶叫。  
 そう、携帯を取り出そうとしたポーチの中に奴が……………。遡行後、あなたの枕元にもいるかもしれません。  
 夏の暑い夜に背筋が寒くなる怖～いお話でした。